



ひかりのこつうしん 「一歩ずつ」 2026年4月



園内めぐり

ひかりの子幼稚園
園長 若槻 三記子

新しい年度が始まり、園庭の緑がまぶしく輝く季節になりました。入園や進級の喜びもつかの間、新しい環境への緊張が少しずつほどけ、その分疲れが出てきている子どもたちもいます。

新しい友達や先生。子どもたちは今、私たちが想像する以上に全身のセンサーをフル回転させ、新しい世界との折り合いをつけようと一生懸命です。心も体も精一杯使っているのですから、疲れが出るのも無理はありません。

この時期、お家に帰るとぐずったり、甘えが出たりすることもあるでしょう。「せっかく慣れたと思ったのに、後退してしまったのでは？」とお家の方も不安になるかもしれません。けれども、児童精神科医で著書「子どもへのまなざし」を書かれている佐々木正美先生は、かねてより「子どもはたつぷりと依存し、甘えを受け入れてもらう経験を通して、はじめて自立へと向かう力が育ちます。外でがんばっている分、一番安心できる場所で疲れを解き放つのは、心が順調に育っている証。」とおっしゃっていました。決して後退ではなく、次へ進むための大切な充電の時間なのです。

私たちは、子どもたちが「ここは自分を丸ごと受け入れてくれる安全な場所だ」と感じることを、何よりも大切にしたいと考えています。「泣いてもいい」「ここにいていいんだ」「先生は、自分の気持ちを分かってくれている」そんな揺るぎない安心感という「根っこ」があってこそ、子どもたちは自分を表現し、新しいことに挑戦する「枝葉」を広げていくことができます。

「まだ友達ができていない」「行き渋りがあって心配」と、焦ることもあるかもしれません。しかし子どもたちは今、泣いたり、戸惑ったり、葛藤しながら、自分なりのペースで一生懸命に人との関係を築こうとしています。

子どもたちの揺れ動く気持ちをそのまま受け止めることによる安心感こそが、次の一歩を踏み出すエネルギーになります。一歩進んで二歩下がるような毎日を「それでいいんだよ！」と温かく見守りながら、保護者の皆様と一緒に、子どもたちの成長を見守っていければと思います。今年度も、どうぞよろしくお願いいたします。

子どもたちの様子



お家作り

砂場のキッチンで、じょうごを使い丁寧に泥水を回し入れている A 君がいました。「コーヒーだよ！」と入れてくれたその手つきは、お家の方の姿をよく見て、憧れを持って真似ているのだろうなと感じとれました。場所をテーブルに移して、A 君はカップをいっぱい並べ、黙々とドリップしています。その姿をじっと見ていた周りのお友達から「コーヒー下さい♡」と声が上がると、遊びは一気に発展。

「泥つとしたコーヒーと普通のコーヒーとどちらにしますか？」と会話が弾み、石のお金を持ってくる子、隣でアイスクリーム屋さんを始める子と賑やかな市場のようなごっこ遊びが展開されました。

自分の好きな遊びから、言葉を介して友達とのやり取りへ。誰かの“楽しい”が周りに伝播し、遊びの輪が広がっていく。そんな、集団ならではの成長を感じるひとコマでした(*^*)